

時事新報の編輯に關する書信にして往々社員へ宛御送致の向も有之候得共宛名の社員不在は事ありて折角の報道も其用と爲さるるを察せらざれば斯る書信は一切時事新報編輯局宛にて御送付被下度候

時事新報定額 時事新報ハ一年三百六十五日一日モ休刊セズ其代價遞送料廣告料ハ左ノ如シ ○一箇月前金五十圓 ○三箇月前金一圓五十圓 ○六箇月前金三圓 ○一箇年前金六圓 ○時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ送還スルモノニ限リ右定額ノ外ニ一箇月ニテ送還スルモノハ別ニ申渡シ

Table with 2 columns: 五箇活字ニテ (Five characters in five characters) and 一行ニテ (One line). Rows include 一行十行 (10 lines), 一行二十行 (20 lines), 一行三十行 (30 lines), 一行四十行 (40 lines), 一行五十行 (50 lines).

時事新報

郵便法の改革に由て生ずる 収入は見るに足らず

近來道路に風聞する郵便法の改革に日本國中郵務發行の新開紙配達を郵便局の一手に引受け發行所より三里以内の配達と發行者に許すのみにて他は必ず局に依頼するの法を設く可しと云ふ蓋し其理由たる最初の程は取寄云々の説と耳にしたるまゝありしかども是れは本來謂れもなき空論にして郵便局に新聞紙三里外の配達と引受ければとて取寄の實際に益するなきは辨するにも及ばず今日既又之を喋々する者もなき由されども尙ほ此改革法の賛成者が専ら主張する所は利益の一點にして從來新聞社が私の工風を以て様々に配達したる其配達を局の専權に歸するときは一年に二三十萬圓の収入を増す可しとて目的とする所は單局の會計に在りと云ふ此説決して非難す可らず總て事業の公私を問はず第一の要は會計の當否に在るが故に郵便局にて毎年の出納と調査し而も支出を減じて収入を増す可方案と得たらば之を實施すること會計の巧なるものあれば我輩は毫も之を非難せざるのみか却て大に賛成する所ありと雖も凡そ何等の事業にても其支出収入を増減するの議に當り注意すべきの釣合の一事にして出納の各部分に偏重偏輕の病なき限りは大抵の處までは滑に事の行ゆるものなり例へば家道不如意にして儉約を行はんとするも父母を始め兄弟姉妹同一様に衣食すれば其衣食は假令粗末にても苦情を聞くことなしと雖も儉約の中に在りながら子供の執れも厚くして執れに薄しなどありては忽ち其家に風波の起らざるはなし今人事の此邊より立言して郵便局が其収入を増と爲めに新聞紙の配達權を專有せんとするは果して其會計の各部分に偏重偏輕の病なきやと尋るときは我輩は然り無病なりと答を得ず世人は之を知るや知らずや我輩は彼の郵便法の保護を見て之を斷する者なり抑も我輩は運輸交通の要を重んずるものにして前年三菱會社が郵便汽船の業を營み居りしやとも之を足らすとして更に共同運輸會社に保護を授けて航海を獎勵せしに關らずも兩社の大競争と爲りしかば是れい以て外の事なりとて乃ち運輸と爲り三菱會社は所有の船舶その他の資産を五百萬圓又共同は同じく六百萬圓に評價して雙方より持出を合して一の新汽船會社を生じたるは即ち今の日本郵船會社は是れなり、是れより先於政府は郵便公用の報酬として三菱會社へ毎年金二十

五萬圓の保護を與へて用を辨じたりしが日本郵船會社の起るに及んで航路の三菱の時代に比して大に變化することなきも猶ほはらず補給金は二十五萬を三倍半にして八十八萬圓に増したることを政府の英斷され、政府の保護いよ／＼厚ければ會社の利益もいよ／＼固くして其材式の價は次第に騰貴し正價一株五十圓のもの七十八圓の間を上して今日に於ても七十二圓を下りたることなき故に初三菱共同が自家の資産を評價して五百萬圓と云ひ六百萬圓と云ひしも随分よき價にてありしに今は其よき價の上に尙ほ大數四割増し五百萬圓に付ては二百萬圓を加へて七百萬圓の價を生じ六百萬圓には二百四十萬圓を附して八百四十萬圓と爲りより本來政府が郵船會社に特別保護を授けるは會社の營業損益相償はすして迎も自立にては郵便の公用と辨すること能はず、左りとせば公共の便利と欲て不都合なりと云ふ所より逓信省支出の一部分として右の補給金を渡すことならんは會社營業の眞面目は必ずしも夫れはとれ難にあらざる其明證は株の價の正價に超過するを見て知る可し正價五十圓の株式が五十圓止まるは營業の損益相償ふて株主に至當の利益ある印にして其價が是れより以上上るときは其上るだけ即ち營業上期する所の外に餘計の利益あると示すものありれば今の日本郵船會社の營業は最初期したる所よりも利を得ること多くして其後株の價に現はれれば正に四割餘に上りたるものあれば斯る盛運なる會社に尙ほ補給と厚くするは當るに次ぐの嫌なきあらざるが如し 等しく逓信省中の會計にして一方の郵船會社に向ては其保護の厚きこと斯の如くにして他の一方の新開紙に臨んでいれ僅々二十萬圓(此計算も固より未定にして實際は必ず少數なる可と推測す)の収入を増すが爲めに其配達法を拘束せんとするの風聞あり若し此風聞を去て實からしめんには我輩の同省の支出収入も偏重偏輕の病を生ずることにはなる可きやと聊か掛念なきに非ず故に鄙見を以てすれ逓信省の會計に事實の困難を催はたらば新に収入を工風するよりも先づ其支出を減するの策を施さんと欲するものなり今試に郵船會社の補給金八十八萬圓を減して七十萬圓と爲したらば株式の價は必ず之に應じて少しく下落するものとせらば正價に比して十圓の差あるが故に補給金を減するも又十萬圓又五萬圓と次第に之を試みて可なり詰り其方法は如何やうにても苦しからず政府が會社に對する恩恵は富めるに次ぐにあらざる唯株主をして郵便公用の爲めに損害を被らしむることだけは夫れにて不義理なしと覺悟を定め五十圓の株を五十圓に在らしむるまで補給を減じたらば毎年二十萬圓の餘財と見るは其だ易きものとせば會社の株主に於ても一昔の苦情ある可らず然るも些々たる新聞紙配達の事などに着手して新聞社の難澁は勿論、全國各地方にある取次賣物人等の衣食と失はしめ以て實際に覺束なき收入と期するや如き我輩は竊に其得策ならざるを恐るものなり或は云ふ逓信省と郵船會社との間には既に條約の存するものあれば之を改ること難じとの説あれども會社創立の際に成りたる命令書即ち條約は昨年中再度も變換したることなれば事の要用に迫れば改む可らざるの性質と備へたるものに非ざるや明なり故に我輩の議論は必ずしも今日今日郵船會社の補給金を減す可と迫るにあらざる且政府の保護を被るものは獨り郵船會社のみならず他に同様の種類多しと雖も今同新聞紙配達の手返信省に關して郵船會社の事と雖も其處を共にするの狀あるが故にたま／＼之に論及し若し同省の會計に切迫の事情あらば先づ其支出中の大なる郵船會社の補給金に着手して然る後他の部分に及ぼし様々新収入の策と講ずるも亦妙ならんと事の前後後急に就て一言を呈するものと

官報

警察令 去る廿二日の本欄に掲ぐる警察令第八號中第六行一條の上に第の字を脱し又第七條中措取は措乳の誤りなりと昨日の官報に是正せり ○大藏省訓令第三十三號 北海道廳 府縣 廣入出豫算條規書式及廣入歳出納規則書式ニ據り調製スル諸書表類料紙ノ備來ル七月以降厚質美濃紙(便宜摺砂引用ニ用ルモ妨ケナシ)ヲ使用スルニ 但西洋紙ハ印刷セシ殘餘ノ分ハ辦宜使用スルモ差支ヘナシ 明治廿一年六月廿六日 大藏大臣伯耆松方正義 東京府令第二十五號 明治十九年(三月)當廳甲第二十七號布達西洋形船航海及碇泊記事差出方ノ件ヲ廢止ス 明治廿一年六月廿六日 東京府知事男爵高崎五六 警視廳告示第十五號 傳染馬病左ノ通り通知アリ馬匹飼養者ハ此際豫防方法意スルニ 埼玉縣埼玉郡須影村 一頭 類似炭疽病 栃木縣芳賀郡上根村 同 皮膚病 同縣下都賀郡分村 同 同 千葉縣香取郡奈土村 同 同 明治廿一年六月廿六日 警視廳監子爵三嶋通庸

雜報

新皇居の御模様 同皇居内部に御飾附は未だ全備に至らざるよしにて目下着手中なり尤も全備に至りたるは後席の間に天井の總て茶色のツレ錦に草木花卉を織り出支東西二方は緑赤色の純子に古代模様の彩織し他の二方に硝子戸ありて其硝子の羽目に金銀もて竹に兎の象眼あり席の正面は三箇の姿見鏡を掛け何れも額縁は總金にて花模様と描き出し中央の鏡の長は一丈幅五尺にして左右の鏡は各長八尺幅四尺とす又間の中央には洋白石を以て彫刻せる人形ありて其四隅には六七寸位もある最と美麗なる寶石を飾り置の四足に黄金製の獅子頭を附せり其他各室中に安排ある數十間宛の硝子は緑赤の純子を張り左右運轉自在にて縁より足に至るまで金色眩然たり又中空に在る四基の電燈い何れも三十八點の小燈を連環し目を驚すの外全く其他講見所は御間内より入側迄を合せ百八十餘坪ありて板の間は黒檀、朝陽、如、檜、目、柘、のピンガ花柄杯の寄木張りと天井は總金塗に古代模様の額はし正面一方は黒赤色の純子と張り他の三方は硝子の唐戸にて一箇小燈四十點を連環せる電氣燈二箇あり間中は楕圓形に毛氈を敷き何れも光彩眼を眩し其高尚美麗なること紙筆の寫し出所非ずと云へり ○清國財政の困難 支那は近時長夜の眠を攪破し費用を惜ずして文明の利器を採りし海陸軍の擴張に鋭意なれども一方に於て非常な財政の困難を感じたるが如き支那の支那新聞に曰く今日支那戸部官吏は國庫の欠乏を憂へ之を挽回し從事せり清國が財政困難の有様を呈出するに至りしは昨年より黄河修復のため莫大の金錢を費せしと清帝大婚の用意に大金を要せし二

政治 六月廿五日第一號發兌 初級題辭 大審院長 尾崎忠治 祝詞 中村正直 論說 朝比奈知泉、法學士 奥田義典、神田表神保町七番地 越後屋庄五郎 占羊 辰 御捕之御の御報次第速に罷出精々高價

古洋服 御捕之御の御報次第速に罷出精々高價 越後屋庄五郎 占羊 辰 御捕之御の御報次第速に罷出精々高價